



## 医療法人 桑名医院

〒960-0461

福島県伊達市片町41

TEL : 024-583-3024

「キビタン健康ネット 利用施設の声」の第9回目は、医療法人桑名医院 理事長 桑名俊光先生にお話を伺いました。桑名医院では、プライマリ・ケアを心がけて診療を行い、子どもからお年寄りまで幅広い年代の患者さんを診察しています。小児は予防接種や風邪の患者さんが多く、高齢者は高血圧、脂質異常症、糖尿病の患者さんが多いそうです。スタッフと協力し、患者さんの訴えをよく聞き情報共有をしています。認知症やフレイル、在宅の患者さんの診療も行っている桑名医院では「キビタン健康ネット」、「キビタンケアネットサービス」を使っています。今回は両サービスについてお話を伺ってきました。

◇「キビタン健康ネット」を診療の中でどのように使っていますか。

当院では主に、病院と併せて受診している方

の検査値確認に使っています。例えば、当院には血圧の治療、情報提供病院には糖尿病の治療で受診している患者さんの検査値を「キビタン健康ネット」で確認して、生活習慣の指導を行っています。情報提供病院での指導内容を全て覚えている方は少ないと思うので、当院でも再度説明しています。また、情報提供病院で行っている検査結果を参照できるので、同じような検査を避けることができます。

また、患者さんの入退院時の情報確認に使っています。診療情報提供書を確認しても、不足する情報がありますが、入院時から当院に帰ってくるまでの経過を「キビタン健康ネット」で確認できるので、今後の予測がしやすくなりました。退院間近の患者さんが当院に帰ってきた後、具合が悪くなった場合の対応を退院前から考えておけるので安心です。

その他にも、お薬手帳を持参しない患者さんの調剤情報確認に使っています。

◇「キビタンケアネットサービス」をどのように使っていますか。

当院では、タブレットなどのモバイル端末

## キビタン健康ネット 利用施設の声

## 第9回



で「ケアネットサービス」を使っています。24時間在宅診療を行っているのですが、いつ、どこから連絡がくるか分からないのですが、「ケアネットサービス」で各介護サービス提供事業所（以下、介護事業所。）からの情報をすぐに確認でき、とても助かっています。もともと電話やFAXで行っていたやりとりを「ケアネットサービス」に変えたのですが、スタッフから書き込みがあれば、血圧など詳細な情報も確認できるので情報をコピーし、診療情報提供書の作成がスピーディにできる場合もあります。また、私が外出中など急ぎの場合に作成した診療情報提供書を「ケアネットサービス」に登録し、当院で待機しているスタッフが印刷して病院へFAXを送ったこともありました。使い方によっては書類作成が楽になりますし、情報伝達が早く内容も正確に伝わるので非常に便利です。末期がんなど患者さんの状態が日々変わる場合にも、リアルタイムに多職種で情報共有できるので迅速かつ適切に対応できます。

「ケアネットサービス」は患者さんの日々の生活状況（写真など）をリアルタイムで共有できるメリットがあります。以前は褥瘡状態について、訪問看護師が撮影後持参した写真を見たり、私が実際に訪問したりして確認していたので、早急な対応が難しい場合がありました。今では「ケアネットサービス」で写真を共有できるので、急ぎの場合や外出中にも確認でき、対応が早くなったと思います。

また、担当者会議やACP（アドバンス・ケア・プランニング）の作成・記録の際やデスカンファレンスなどで後から振り返る際にも「ケアネットサービス」の情報が役に立ちます。紙の場合、担当者が代わることで情報が分からなくなる可能性があります。しかし、「ケアネットサービス」で情報共有しておけば、引継ぎ時にも、電子的に以前の情報を確認できるので安心かつ楽だと思います。要支援1や2の患者さんが要介護状態になり、介護事業

所が代わった時、情報をスムーズに引き継いだ例もありました。医療機関と介護事業所のやりとりだけでなく、介護事業所同士で使えることもメリットだと思います。薬剤師や訪問看護師とも情報共有できるので、とても参考になり、より良いケアに繋がっています。

◇今後、どのようなことを期待していますか。

情報提供病院に、「キビタン健康ネット」でもっと様々な情報を公開してほしいです。また、参照機関も含め双方向の情報共有が出来ると、使い勝手がより良くなると思います。

加えて、同一のPCやタブレット上で「キビタン健康ネット」「ケアネットサービス」、電子カルテが使えるようになってほしいです。そうならば、作成した診療情報提供書をPC上で送れるようになりますし、「キビタン健康ネット」でやりとりした診療情報提供書も電子カルテに保管しやすくなり便利です。

県内各地で「ケアネットサービス」をもっと使ってほしいです。地域単位の地域包括ケアシステムで中心となっている方から使っていただき、普及してほしいと思います。



理事長 桑名 俊光 先生

桑名先生ありがとうございました。

(レポート 樺澤)

